

母校のデザイン

私は母校が好きだ。豊かな自然と、のびのびとした雰囲気に憧れ、第一志望で入学してから約6年、その思いは変わることはなかった。私にとっては大好きな母校だが、地味な学校なので、残念ながら魅力がいまひとつ伝わっていない。母校を少しでも盛り上げようという思いから、文化祭の広報物や受験生向けのフライヤー等、母校の魅力を発信するチャンスに積極的に関わってきた。文化祭では2年連続で実行委員を務め、1年目の経験と気づきを生かしてパンフレットの校内マップを一新した。また、文化祭ポスターは、歴代ポスターにありがちだった幻想的なアニメ調のイラストではなく、自分たちが日々過ごしている校舎をメインに、毎日の学校生活のリアルな楽しさを出すデザインにし、全校投票で選ばれた。フライヤーでは、受験生とその親をターゲットに母校の魅力を凝縮して伝えるよう制作し、学内コンペで選ばれ、私学フェアや学習塾等で多くの人に配られることになった。学校のシンボルでもある楠から青空が広がっていくような構図にすることで、生徒が豊かな自然の中でのびのび成長する様子を表現した。

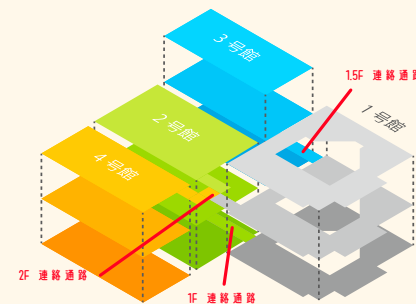
フライヤー



文化祭デザイン



構内図 - 立体



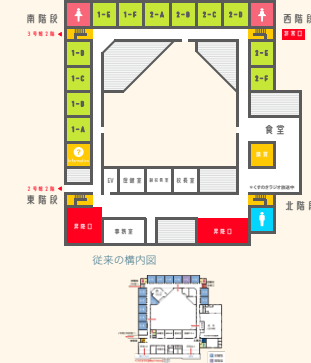
KUSUNOKI FESTIVAL

A B C D E F G H I J K L M N

O P Q R S T U V W X Y Z

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 . : ; ! ?

構内図 1F - 平面



Info.

Year : 2024 - 2025

Tools : Illustrator, Photoshop

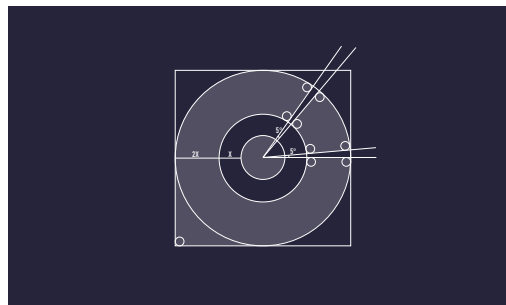
Link : <https://logoart.github.io/kusunoki-fes.html>

<https://logoart.github.io/school-flyer.html>



Grüinity

『高校生みんなの夢AWARD in 大阪・関西万博』への参加にあたり、『Grüinity』を提案した。Grüinityは、環境活動を記録・発信できるSNSと、人材マッチング機能を融合させた次世代型サステナブル・プラットフォームである。個人の環境への取り組みが社会的な価値として評価され、企業とのつながりやキャリア形成に生かされる新しいエコシステムだ。投稿やリアクションを通じて環境行動が承認・共有される循環的な仕組みを生み出し、社会全体の意識変革を目指す。システム名のGrüinityは、人々と地球の笑顔(ü)を含んだ「grün(grenn)」と「community」に由来する。ロゴマークは、「新たな視点で環境問題に向き合う」という意味を込めて目をモチーフにした。レーダーが右上に広がるような構図は、若い人材の発見と小さな行動の積み重ねを象徴している。私は現代社会の環境問題に対する態度と意識を改善するには、一人ひとりが環境問題を他人事とせず、自分の事として捉え具体的な行動に移していく必要があると考えた。Grüinityはそんな社会の先駆けとなるプラットフォームである。



Info.

Year : 2025
Tools : Illustrator
Link : <https://logoart.github.io/grunity.html>

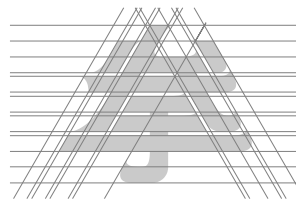


ロゴ制作

ロゴ制作では、それに至るまでの発想や構想のプロセスを重視して、積極的に公募に応募した。『土門拳写真美術館ロゴマーク』では、旧書体の「拳」の字を主体に、土門氏のキレのある、リアリズムを追求した写真への姿勢を表した。ハネやハライを強調することで、筆で書いたような力強さをロゴに与えつつ、各辺を等間隔に並べることで真面目な印象も与えられるよう工夫した。『安芸市制施行 70 周年記念ロゴマーク』では、文化と歴史の街を表現できるよう構図と配色を工夫した。構図は、「安芸」の二文字を元に、内原野焼きの独特の横に細く伸びる模様を表現した。また配色は、幅広い世代の人に親しまれるよう、線の角は丸く、温かみが伝わるように制作した。上から順に、赤は「太陽の日差し」、オレンジは「日本一の生産量を誇るゆず」、青は「太平洋へ広がる土佐湾」、藍は「特産品ナス」をイメージしている。



拳 土門拳写真美術館
Ken Domon Museum of Photography



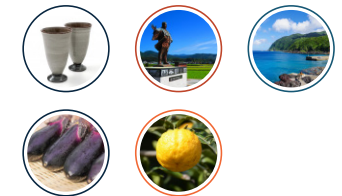
安芸市
Aki City



Text

安芸 あき
Aki

Ideas



Info.

Year : 2024 - 2025

Tools : Illustrator

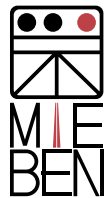
Link : <https://dribbble.com/shots/26214918-Logo-Ken-Domon>
<https://dribbble.com/shots/25982844-Branding-Aki-City>



MIE BEN

弁当を笑われたことがあるだろうか。ある日、私の弁当は白米と肉そぼろのみであった。その日の昼食時、私の弁当は笑いの的になった。私の母はズボラだが、それでも毎日弁当を持たせてくれる。そんな母の弁当を笑われた時、私は恥ずかしさを覚えると同時に心苦しかった。いくら手抜きな弁当であったとしても、それでも母は朝早く起きて作ってくれているのだ。弁当はあらゆる格差が顕著に出る。彩りよく、栄養バランスがあり、美味しい弁当は、誰もが抱く理想だが、しかし誰もが作れるものではない。私は美しい弁当を求めすぎている風潮に違和感を覚えた。そこで、「見栄え」よく「見栄」を張れる弁当する、『MIE BEN』を発売した。全 18 種類の具材サンプル『Goo』とその収納ケースで構成されており、使い方は至ってシンプル。弁当の空いた隙間を Goo で埋めることで、賑やかな弁当に仕上がる。Goo には唐揚げや卵焼きといった定番から、レタスなどの仕切り用具材まで揃え、どんな隙間も埋められるようにした。収納ケースは、見栄を張る人をそっと応援するものとしてなるべく目立たないデザインにした。引き出しの中は、印刷されたイラストに従い Goo を効率的に収納することができる設計になっている。将来的には、素材をシリコン樹脂にすることで、食洗機対応による実用性の向上や、3D プリンターによる大量生産を目標にしている。ハリボテの具材では決して腹は満たせないが、ハリボテが弁当箱を満たすことで得られる「満足感」をあえて強調することで、社会に根付く同調圧力や弁当への高すぎる理想を風刺する。MIE BEN は、忙しい人がもう一品を作れない苦しさを助ける実用性を兼ね備えつつ、社会に弁当の常識を問い直し、弁当の本当の意義を考えるきっかけを与える作品である。

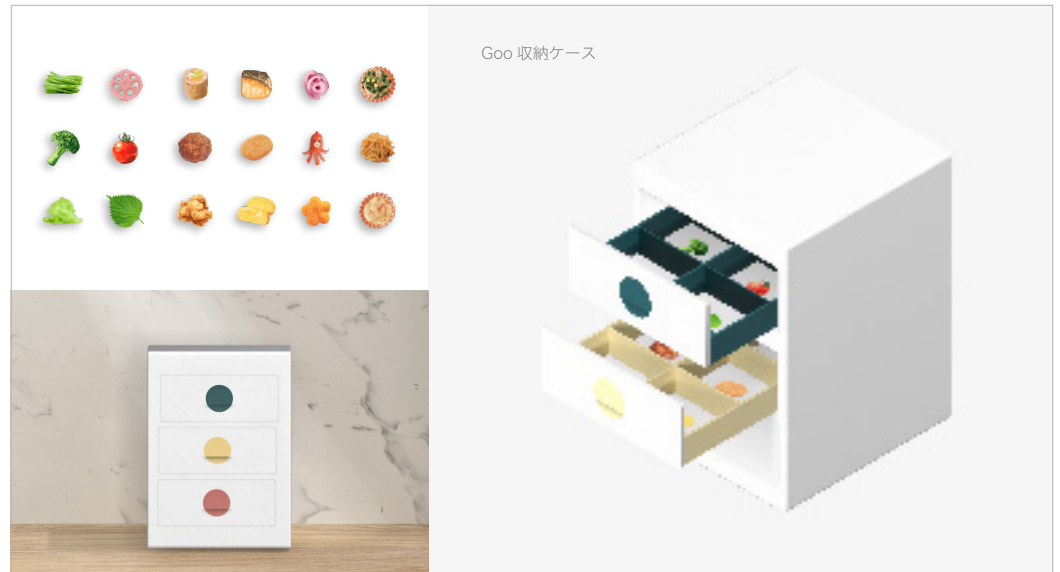
Mockup メイン



母の弁当

Mockup
上から

Mockup サブ



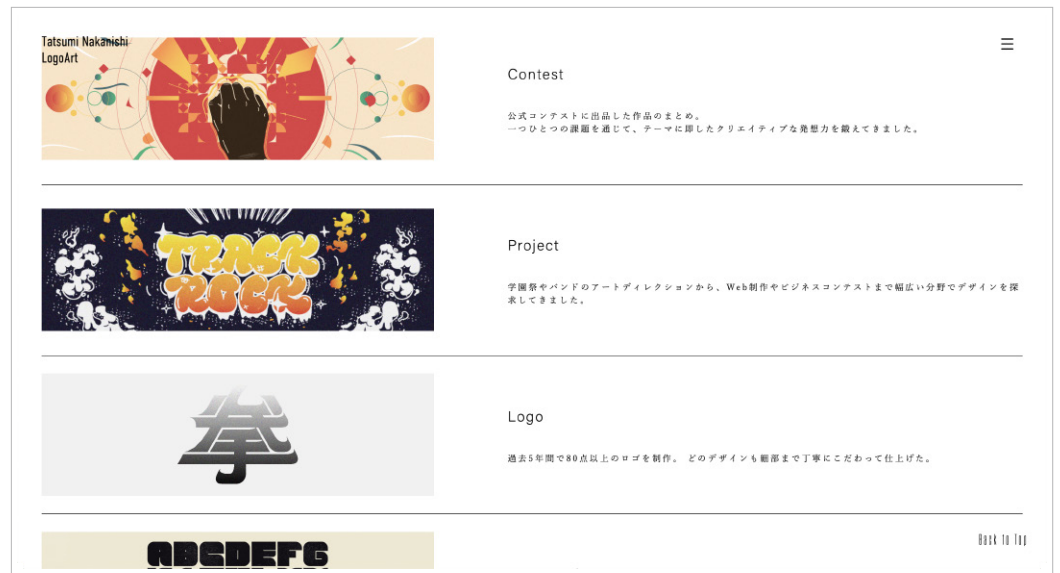
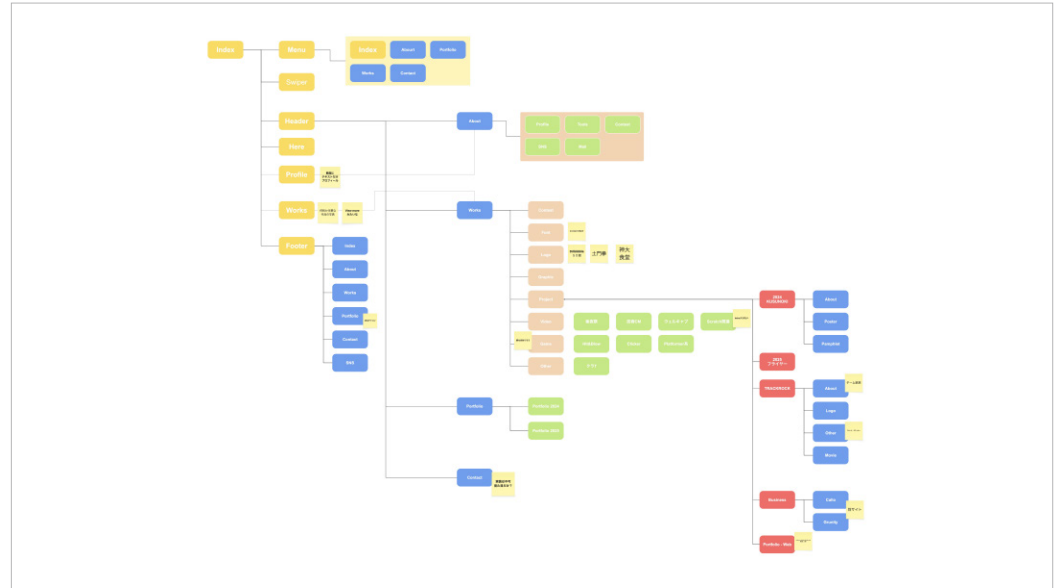
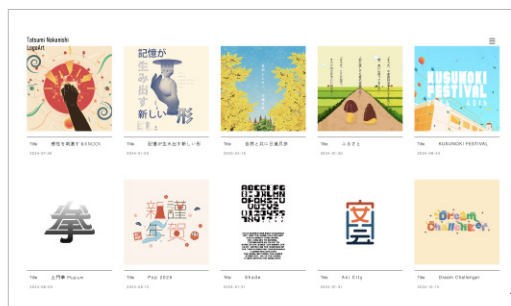
Info.

Year : 2025
Tools : Illustrator
Link :

Web Portfolio

自身の制作物を整理し、制作活動への溢れる情熱を伝えるため、Web サイトを作成した。まず、ホワイトボードツール Miro を活用し、全体構造やページ階層を整理して設計を行った。次に、Visual Studio Code でコーディングをした。既存のノーコード Web 制作ツール（Wix や Studio など）では表現や構造に制約があると思い、自由度の高い表現を実現するため HTML・CSS・JavaScript を独学した。そして、国や地域を問わず幅広い人々に作品を届けるため、GitHub を用いてサイトをホスティングした。また、量が膨大でこの Web サイトに載せきれなかった個々の作品の制作過程は、今まで作品を公開してきた Dribbble や Foriio とリンクさせ、見られるようにした。

<https://logoart.github.io>



Info.

Year : 2025

Tools : Illustrator,Figma,HTML,CSS,JavaScript

Link : <https://logoart.github.io>

